

# 兵庫県立 考古博物館 NEWS

vol.35



Hyogo Prefectural  
Museum of  
Archaeology



2025 Spring-Summer

2025年 春夏号

- 春季特別展「弥生の至宝 銅鐸」
- 夏季企画展「ひょうご発掘調査速報2025」
- ユニバーサルプロジェクト2024の取り組み  
～誰でも参加できる古代体験講座を目指して～
- 古代鏡展示館春季企画展「しあわせの花 ― 鏡に表現される植物たち ―」

春季特別展

## 弥生の至宝 銅鐸

令和7年4月26日(土)～6月29日(日)

本展覧会は「令和7年度 国立文化財機構所蔵品貸与促進事業」の補助を受けて実施しています

青銅。銅と錫を混ぜ合わせたこの合金は、人間が鉄よりも早く自由に操れるようになった金属で、人類の発展に大きく貢献してきました。日本列島へは今から2,400年以上昔の弥生時代にその鑄造技術がもたらされ、工具や武器など実用的な用途以外に祭祀の道具として重宝されました。こうした日本の青銅器を代表するものの一つが「銅鐸」で、弥生時代のおよそ600年間にわたって近畿地方を中心に使用されました。

銅鐸は上部の半環状の部分に紐を結わえ、吊り下げて使用されます。揺らされることで、内部に別付けされた「舌」と呼ばれる棒状のものが銅鐸とぶつかり、筒状に開く本体から音が響くようになっています。表面は様々な模様で飾られており、水が流れるようなパターンや幾何学模様のほかに、ヒトやシカといった具体的なモチーフが描かれるものもあります。時代が新しくなるにつれて銅鐸は大型化し、音を鳴らす「聞く銅鐸」から「見る銅鐸」へと性格が変わっていくことが知られています。

銅鐸をはじめとする青銅器は、溶けた青銅を型に流し込んで作られます。兵庫県では、姫路市の名古山遺跡から銅鐸を作るために使われた型が日本で初めて見つかりました。この発見によって、銅鐸が石で作られ



さかね  
栄根銅鐸 (川西市)  
東京国立博物館蔵

た鑄型を用いて製作されたことが明らかとなりました。特に播磨地域では、銅鐸の鑄型が多く見つかっており、製作途中の鑄型も出土しています。青銅器の鑄造には製品を形作る鑄型だけでなく、青銅を溶かすための坩堝となる高坏形土製品、火力を高めて高温にするために空気を送り込むための送風管など、特別な道具や高い技術が必要となります。本展では、銅鐸本体だけでなく、鑄造関連資料からも銅鐸を考えます。

また、溶かすことで別の物に姿を変えることができる点も金属の大きな特徴です。近年の調査では、銅鐸の破片が鑄造関連遺物と一緒に出土する例が増加しており、埋められる他にも、別の青銅器に姿を変えた銅鐸が存在したと考えられます。



気比1～4号銅鐸 (豊岡市)  
東京国立博物館蔵【重要文化財】

## 記録に残された銅鐸

現代では銅鐸が出土すると、新聞やニュースで大きく取り上げられ、世間の注目を集めています。古代人にとっても銅鐸の出土は関心事であったようで、文献資料にもその記録を見ることができます。現在知られている最も古い記録は、今から1,300年以上も遡る668年の出土を記したもので、寺院の建立に伴い土地を掘削した際に出土したことが伝えられています。播磨でも弘仁12年(821)に高さ三尺八寸の銅鐸が出土したことが『日本紀略』に記されています。

江戸時代には、銅鐸の出土を記した文書に絵図が伴う場合があります。今では行方がわからなくなっている銅鐸の姿を知る手掛かりになっています。本展では、江戸時代に淡路島の歴史や風俗を記した3種類の地誌『淡路草』<sup>あわじぐさ</sup>『堅磐草』<sup>かきわぐさ</sup>『味地草』<sup>みちぐさ</sup>を展示し、それぞれの絵図に記された特徴をもとに、描かれた銅鐸がどのようなものであったのかを探ります。



『淡路草』写本  
淡路文化史料館蔵

## 当館のとりのくみ

弥生時代は日本列島に金属がもたらされた時代であり、銅鐸を通してこの新たな素材に出会った弥生人も多かったことでしょう。今では緑青や黒色のサビに覆われ、展示ケース越しにしかな鑑賞できない銅鐸ですが、忠実に復元された銅鐸からは、弥生人が体感した音や輝きを追体験することができます。

また、「銅鐸がどのように壊れるのか」といった実物では試すことができない実験もすることができます。展示会では、こうした復元品や実験の成果も展示しています。ぜひ会場で見て・聞いて・触って銅鐸を体感してみてください。

学芸課 藤原 怜史



復元銅鐸  
兵庫県立相生産業高校作成

実験で破砕した復元銅鐸  
当館蔵



## 担当 学芸員 紹介



学芸課の藤原怜史です。今回の主題である銅鐸は、教科書にも登場する有名な考古資料です。また、高い技術で精緻に作られた銅鐸は美術的な価値も高く、これまでに多くの展示会がおこなわれてきました。今回の特別展を担当するにあたり「万博にあわせて銅鐸を！」との指示を受けた際には、既に色々な銅鐸の展示がされている中で、どのような展示会を企画するか苦心しました。

“初心者には分かりやすく、詳しい方には新たな発見の手掛かりを！”をモットーに、銅鐸が魅せる様々な表情にスポットライトを当てていますので、ご来館いただき楽しんでもらえそうですと幸いです。



夏季企画展

## ひょうご発掘調査速報 2025

令和7年7月12日(土)～8月24日(日)

兵庫県教育委員会が令和6年度に実施した塚口山廻遺跡・池田山古墳(尼崎市)や山角廃寺(加古川市)など最新の発掘調査成果や、津万遺跡群(西脇市)、明石城武家屋敷跡(明石市)などの出土品整理の成果を一堂に公開する速報展です。

あわせて、ひょうご五国のうち、丹波地域に焦点を当て、拠点的な集落として栄えた七日市遺跡(丹波市)出土資料を中心に丹波の弥生時代を紹介します。

また、古代鏡展示館(加西分館)収蔵の千石コレクションの中から、古代中国鏡の逸品を公開します。

学芸課 渡瀬 健太



明石城武家屋敷跡出土の陶磁器

## ユニバーサルプロジェクト 2024 の取り組み ～誰でも参加できる古代体験講座を目指して～

近年、当館への放課後等デイサービスなどの事業所の利用が増えています。そこで、令和4年1月に「知的障がい・発達障がいのある子どもも楽しめるワークショップデザイン」というテーマで古代体験研究フォーラムを開催しました。

そこで得られた知見を基に、「みんなにやさしい考古博物館」を目指して障がいのある方をアシストできるボランティアを増やすため、令和5年度から発足した取り組みが「ユニバーサルプロジェクト」です。

当初は、プロジェクトメンバーによる研修、ユニバーサルの予約制古代体験講座の企画運営などが活動の中心でしたが、兵庫県教育委員会が実施している「ミュージアムインクルージョンプロジェクト」への参加や、国の合理的配慮提供の義務化などを背景として館全体での取り組みが必要と実感しました。そこで、令和6年度は来館者と接することが多いボランティア全員のスキルアップを目指し、障がい者向けの体験講座をユニ

バーサルプロジェクトのメンバーだけでなく、まが玉・石包丁づくりや土器づくりなど他のワーキンググループの協力も得て企画、運営することでボランティア全体が取り組むことにしました。そしてユニバーサルの古代体験講座を2回開催しました。

1回目の令和6年7月14日(日)に開催した「まが玉のネックレスをつくろう!(ユニバーサル)」では、重度の障がいのある方も参加されましたが、改良した工具とボランティアのサポートにより、まが玉のネックレスを完成することができ、大変満足して帰られたことで確かな手ごたえを感じました。

2回目の令和7年1月26日(日)に開催した「はにわくんのおひなさまをつくろう!(ユニバーサル)」では、受講者が楽しそうに粘土をこねて個性的なおひなさまを仕上げている姿が印象的でした。

これからも「みんなにやさしい考古博物館」を目指して、活動を続けていきたいと思っています。

学習支援課 岡本一秀・兼本隆



古代鏡展示館春季企画展

## しあわせの花 ― 鏡に表現される植物たち ―

令和7年3月15日(土)～9月7日(日)

休館日：水曜日

※2025年3月15日(土)～2025年5月6日(火)は無休

場 所：兵庫県立考古博物館加西分館「古代鏡展示館」  
(加西市豊倉町飯森1282-1 兵庫県立フラワーセンター内)

古代鏡展示館が所在する兵庫県立フラワーセンターは春から夏にかけて植物が芽吹き、開花し、緑が色濃くなる季節です。この時期にあわせて植物の紋様が表現された銅鏡に焦点をあてた企画展を開催します。

鏡の背面に植物をモチーフにした紋様が出現するのは、戦国時代後期(紀元前4世紀)頃のこと。葉状の紋様がささやかに表現されています。

銅鏡の植物紋様を代表する蓮花は、漢時代(紀元前2～紀元後2世紀)以降様々な姿で表現されます。蓮花は泥の中から美しい花を咲かせることから清廉さや生命力の強さを表す仏教のイメージが強いのですが、天上の象徴や花と実を同時につけることから多産を象徴する縁起の良い植物でもありました。

隋・唐時代の6～8世紀、植物紋様は鏡背面にさらに咲き誇ります。伝統的な蓮花に加え、西・中央アジアに由来する植物紋様が流行します。西アジア原産の葡萄<sup>ぶどう</sup>は、房に多くの実をつけることから子孫繁栄<sup>ほうじょう</sup>や豊饒を象徴しました。

実在する植物のほかに想像上の植物で縁起の良い花とされる宝相華紋<sup>ほうそうげもん</sup>も生まれ、それを円形に図案化した団華紋<sup>だんかもん</sup>が鏡背面に表されます。

銅鏡に表現された植物紋様は、単に美しさを象徴するだけではなく、幸福への願いが込められているのです。

季節の植物が咲き誇る兵庫県立フラワーセンターとあわせて鏡に咲く植物の紋様をぜひご鑑賞下さい。

古代鏡展示館 長濱 誠司

だんかもんきょう  
団華紋鏡(隋-唐時代)れんじょうからこもんはなかがきょう  
蓮上唐子紋八花鏡(唐時代)

触れる・体感する、考古学のワンダーランド。  
**兵庫県立考古博物館**  
Hyogo Prefectural Museum of Archaeology

休館日：月曜日 祝休日の場合は翌平日

〒675-0142  
兵庫県加古郡播磨町大中  
1-1-1

TEL.079-437-5589

FAX.079-437-5599



考古博 web

—— 兵庫県立考古博物館 加西分館 ——  
**古代鏡展示館**  
Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors

休館日：水曜日 祝休日の場合は翌平日

〒679-0106  
兵庫県加西市豊倉町飯森1282-1  
兵庫県立フラワーセンター内

TEL.0790-47-2212

FAX.0790-47-2213



加西分館web

兵庫県立考古博物館NEWS  
vol.35 2025 Spring-Summer

発行年月日 令和7年2月27日

編集・発行 兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中 1-1-1

TEL.079-437-5589

FAX.079-437-5599

<http://www.hyogo-koukohaku.jp/>